

都道府県・ 指定都市番号	18	都道府県・ 指定都市名	福井県	研究課題番号・校種名	2(5) 小学校・中学校
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成, 指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名  (園児・児童・ 生徒数)	・敦賀市立敦賀北小学校 (182 人) ・敦賀市立咸新小学校 (96 人) ・敦賀市立赤崎小学校 (13 人) ・敦賀市立角鹿中学校 (145 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・児童生徒数の減少が進んでいる。 ・小さなコミュニティでの活動が多いため, 多様な考え方が生まれにくい。	
所在地 (電話番号)	敦賀市立角鹿中学校: 福井県敦賀市角鹿町 6-1 (0770-22-1634)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://edu.ton21.ne.jp/tsunoga/">http://edu.ton21.ne.jp/tsunoga/</a>				
研究のキーワード	<input type="radio"/> 「めざす生徒像」の追究 <input type="radio"/> 「授業スタイル」の共有 <input type="radio"/> 「振り返り」の充実 <input type="radio"/> 円滑な接続 <input type="radio"/> 小・中学校教員の相互理解				
研究結果のポイント	<input type="radio"/> 「めざす生徒像」に向けた, 校種間連携による「授業スタイル」の構築と共有 「主体的な学び」に向かう学習活動の過程を小中で統一したことで, 児童生徒が見通しを持って授業に臨むことができた。 <input type="radio"/> 「主体的な学び」に向けての「振り返り」の充実 「授業で分かったこと」「他者から学んだこと」「次がんばりたいこと」の三観点から授業を振り返る。「振り返り」から教師は児童生徒の学びを見取り, 次時の課題探究につなげることで, 主体的な学びの意欲が高まる効果があった。 <input type="radio"/> 円滑な小中接続の基盤づくり 小中教員間の相互理解が進んだ。計画的な小小・小中連携授業, 九年間を通して情報モラル教育や教育相談会議を実施することにより, 児童の中学校への進学意欲も向上した。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

児童生徒が主体的に学ぶ姿を通して,

小中学校を円滑につなぐ教科指導および支援体制の工夫・改善

～小中接続を意識した主体的な学びにつながる『授業づくり』の追究～

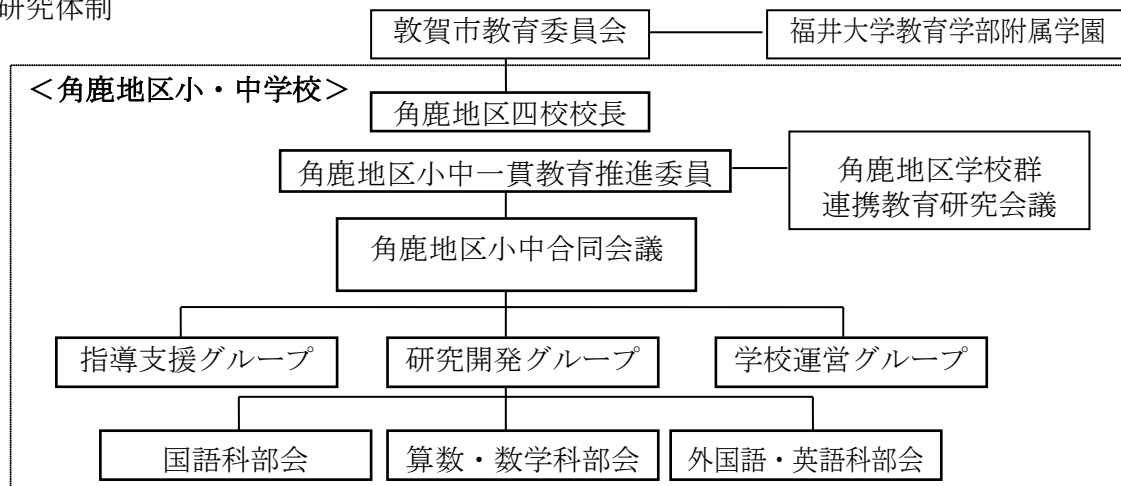
### (2) 研究主題設定の理由

角鹿中学校区には, 単学級や複式学級を有する小学校が三校と, 各学年二学級の中学校が一枚あり, それぞれに特色ある教育を進めている。しかし, 各小・中学校では小さなコミュニティでの活動が多くなり, 人間関係が固定化する傾向にある。また, 新たな人間関係づくりや全体の場で自らを表現することを苦手を感じる児童生徒の割合が高く, 主体的に活動することに消極的な面が見られる。

本校区は平成 33 年度, 一体型の小中一貫校になる予定である。そこで, 児童生徒の「主体的に学習する態度の育成」に着目し, 小中が連携した「授業づくり」と「環境づくり」に重点を置き, 九年間の系統的な一貫教育の具現化に向けた研究を進めてきた。

この研究を進めることにより, 九年間の「学びのつながり」が充実し, 他者との関わりが深まることで協働して課題解決に向かう力が高まると考え, 上記の研究主題を設定した。

(3) 研究体制



※各グループの役割（四小中学校の全教職員で組織）

- 研究開発…国語科，算数・数学科，外国語活動・英語科の各教科等において，「めざす生徒像」に向けた授業づくりの実践
- 指導支援…九年間を通して情報モラル教育・教育相談者会議の実施
- 学校運営…小小・小中連携授業や小中交流行事への取組を推進

(4) 2年間の主な取組

平成 28 年度	<p>&lt;前期&gt; 「めざす生徒像」の設定及び研究組織の立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科等における「主体的に学習する態度」の明確化と評価規準の策定</li> <li>○円滑な接続に向けての支援体制や交流活動の計画・実践</li> </ul> <p>&lt;後期&gt; 「めざす生徒像」に向けた取組の実践・見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究開発グループによる「合同授業研究会」の実施</li> <li>○小中連携授業・小小合同授業の実践と見直し</li> <li>○小中合同全体会議の定期開催</li> <li>○支援体制（小中合同教育相談担当者会議）の充実と見直し</li> </ul>
平成 29 年度	<p>&lt;前期&gt; 「めざす生徒像」に基づく「主体的に学習する態度」を追究する授業スタイル構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究目的と方向性の再確認及び合同授業研究会に向けた指導案の検討</li> <li>○学習活動の「振り返り」を充実させる授業づくり及び見取りの工夫・改善</li> <li>○小小合同授業（三・四年，五・六年），小中連携授業，小中交流行事（避難訓練・壮行会・合唱コンクール）の実施</li> <li>○小中意識調査の実施</li> </ul> <p>&lt;後期&gt; 「めざす生徒像」に向けた授業実践，成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究開発グループによる「合同授業研究会」の実施と検証</li> <li>○小中連携授業の実施，児童会・生徒会による自治活動の推進</li> <li>○小中意識調査の実施</li> <li>○推進委員会・小中合同会議の開催「研究の成果と課題」「次年度からの研究体制の在り方」</li> </ul>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 「めざす生徒像」に基づく「主体的に学習する態度」を育成する「授業スタイル」の構築と共有
  - ア 「めざす生徒像」策定（一年次）
  - イ 評価規準の策定（一年次）と修正（二年次）
  - ウ 一時間の学習活動の流れの共有化
  - エ 教科研究部会における授業研究会の実施
- ② 「主体的な学び」に向けての「振り返り」の充実
  - ア 「振り返り」のねらいと視点の共有
  - イ 「振り返り」から児童生徒の学びを評価
  - ウ 「振り返り」を基にした，次時の学習展開の工夫及び学習課題の設定

③円滑な小中一貫の基盤づくり

- ア 計画的な小中連携授業，小小合同授業，小中交流行事の実施
- イ 不登校及び発達障害を抱える児童生徒への支援体制の強化（小中教育相談担当者会議）
- ウ 中学校生徒会からの主体的な提案による連携活動の実施

(2) 具体的な研究活動

①「めざす生徒像」に基づく「主体的に学習する態度」を育成する「授業スタイル」の構築と共有

- ア 「めざす生徒像」策定（一年次）  
本校区の地域性，児童生徒の教育課題や保護者の願いを踏まえ，育てたい児童生徒像を策定し，家庭・学校・地域で共有した。
- イ 評価規準の策定（一年次）と修正（二年次）  
「めざす生徒像」に迫るための児童生徒の姿をもとに，研究教科（国語科，算数・数学科，外国語活動・英語科）において，発達の段階ごとに作成し授業研究を行った。
- ウ 一時間の学習活動の流れの共有化  
児童生徒が見通しを持って授業に臨む環境を統一し，導入とまとめを一体的に捉え，「何が分かったのか」や「何ができるようになったのか」を明確にした授業に取り組んだ。

	学習の流れ	留意事項
導 入	1 課題把握	○「生活に根ざしたもの」，「解決したくなるようなもの」，「前時からの学びのつながり」，「身に付ける力が明確なもの」を学習課題に設定する。
	2 到達目標の確認 めあての確認	○評価規準Bに値する姿を確認する。 ○学習形態や学習方法を示し，一時間の見通しを持つ。
展 開	3 見通しを持つ	○課題に対する考えを一人一人が持つ。 ○全員が書ける手立てを考える。 ○ペアによる教え合いを活用する。
	4 深め広げる	○グループでの対話で，考えを深め広げる。 ○全員が話し合いに参加できているか把握と支援をする。 ○結果を報告し，学習課題に対する妥当性を考える。
ま と め	5 まとめ	○教科の「用語」を使ってまとめる。
	6 振り返り	○「授業で分かったこと」，「他者から学んだこと」，「次にならばやりたいこと」の三観点で振り返る。 ○書き出しや書く分量の工夫をする。 ○授業者の振り返りと，児童の評価，次時への見通しを持つ。

エ 教科研究部会における授業研究会の実施

各教科研究部会に分かれ，小中間の授業研究会を行った。学びの系統性，学習形態の在り方，教具や板書の統一化，効果的な振り返りの活用法などを参観の視点として協議を進めた。

②「主体的な学び」に向けての「振り返り」の充実

ア 「振り返り」のねらいと視点の共有

視 点	小学校	中学校
①授業で分かったこと	・教科用語やキーワードを用いる ・まとめに役立つ根拠を示す	
②他者から学んだこと	・他者の考え方や学び方のいいところ ・他者からの分かりやすかったアドバイス	・自分の考えがどの意見で，どのように変容したか
③次にならばやりたいこと	・次時に学びたいこと ・生活場面や家庭学習へのつながり	・新たな疑問や将来へのつながり

イ 「振り返り」から児童生徒の学びを評価

教師が，児童生徒一人一人が到達目標に達しているか，どのように学びが展開されていたかを評価するとともに，次時の意欲付けを図ることで主体的な学びの伸長を図ってきた。

ウ 「振り返り」を基にした，次時の学習展開の工夫及び学習課題の設定

単元全体の授業設計を見直し、次時の課題に反映させることで、児童生徒の主体的な学びが継続していくようにした。

### ③円滑な小中一貫の基盤づくり

ア 計画的な小中連携授業、小小合同授業、小中交流行事の実施

小学校六年生を対象に、中学校の教室で小学校と中学校の教員がTTで行う授業を、一年間に五回計画し実施した。本校区の「弱みの系統図」を基に授業内容を計画した。また、小小合同授業と小中交流行事もあわせて実施した。

イ 不登校及び発達障害を抱える児童生徒への支援体制の強化（教育相談担当者会議）

不登校対策として小中で指導の在り方を共有し、「初期対応アクションマニュアル」を作成した。これにより、未然防止、初期対応、自立支援の流れを確実なものとしている。

ウ 中学校生徒会からの主体的な提案による連携活動の実施

中学校の「清掃活動」「挨拶運動」を、生徒会が中心となり、校区内の小学校に生徒自らが出向き、共通実践している。また、中学校同様にSNSに関するルールとして、小学校共通の「スマイルール」を作成した。

## 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

### 【研究全体より】

○各学校で育成を目指す資質・能力や教育目標に向けた取組について、保護者、地域、学校の合同開催による協議会等を通じて、学校や地域間で共有しながら改善を図ることができた。

○教員の合同研修体制を構築し、地域全体で育成すべき資質・能力を検討しながら各教科等や各学年の指導の在り方を考え、指導改善につなげることができた。

### 【児童生徒の主体的な学びを見取る実態調査等より】（四校合同調査）

○小学校は、「勉強が好き」と感じる児童の割合が大幅に伸びた。（国語は+4.6%で86.2%，算数は+8.5%で87.4%）また、「学んだことは将来の役に立つ」としている児童の割合も同様に伸びが見られ（国語+4.2%で94.3%，算数は+0.2%の96.9%），学びに対する意識が確実に向上している。目標を持って主体的に学習に向かう姿勢は、全ての学年で見られるようになった。

○小学校は、「授業内容がよく分かる」とする児童の割合も上昇している。五月と比べて微増ではあるが、国語+0.9%の95.0%，算数+1.6%の93.7%と高い肯定率で推移している。児童が見通しを持って授業に臨めるよう、どの教科や学校においても学習活動の流れを統一したことや、「何がわかったのか」「何ができるようになったのか」を明確にした授業を進めてきた成果と捉えている。また「振り返り」を通して、児童が自己の学びやその過程を再考することにより、家庭学習も充実し、自分で学習に取り組む児童が確実に増えてきたことも二年間における変化である。

○小中連携授業により、中学校生活に対する肯定的な考えが増えてきている。

○中学校数学科において、「授業内容がよく分かる」とする生徒の割合は昨年度と同様（80%前後）であるが、「友だちの考えや説明を聞いて参考にしている」とする生徒の割合は72%から81%に上昇している。対話を重視した授業づくりが、成果として表れ始めていると感じる。

○中学校三年生では、「勉強が好き」と感じる生徒の割合が五月よりも高まった。（国語+4%，社会+10%，数学+4%，理科+11%）また、「分からないところは進んで聞いたり調べようとしたりする」姿も各教科で上昇していることから、主体的な学びの姿を感じることができている。

●本研究での成果が、「身に付けたい資質・能力」の向上に結び付いているのか、そして教科の力が向上していくのかを継続して検証していく必要がある。

●「振り返り」は児童生徒を見取る一つの視点であり、それだけで全てを評価するものではない。幅広く評価の方法を考えていくことが必要である。

### 【教員対象のアンケートより】

○小小・小中連携授業において、円滑に指導案検討やTTによる授業を進めていくことができ、特に中学校教員の主発問や板書の工夫が顕著に改善された。

## 4 今後の取組

○本校区の「弱みの系統図」を教科ごとに作成して実践した。今後は「強み」も共有し伸ばしていけるような「授業づくり」を目指したい。

○小中連携授業、小小合同授業、小中交流行事に継続して取り組み、めざす生徒像の育成に向けて連携と接続を強化していく。